

美術の目標

- (1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高めます。
- (2) 対象を深く見つめる力、感性や想像力を一層深め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばします。
- (3) 自然、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高めます。

評価の観点・方法

【評価の観点】

美術では、次の4つの観点で学習の評価をします。

- ① 美術への関心・意欲・態度
- ② 発想や構想の能力
- ③ 創造的な技能
- ④ 鑑賞の能力

【評価の方法】

- ☆ 授業中の取り組み、計画性、忘れ物や作品の提出状況、道具や材料の準備と後かたづけ、授業の約束を守っているなどを評価します。
- ☆ 造形的な技能、鑑賞の能力などを評価します。
- ☆ 一人一人の個性に応じた評価をします。
- ☆ 授業中に先生や生徒が気付いた良い点をそのつど生徒に伝えます。
- ☆ 完成作品(発表内容)を見て評価します。(制作過程中的の作品も評価します。)

特色ある学習方法

- ① たくさんの道具や素材(紙・石・木・金属・粘土・廃材等)を生徒が表現したいものに合わせて選択活用できるように教室に用意します。ただし、独創的なアイデアのために必要になったものは家庭からのご協力をお願いします。
- ② 造形活動への興味・関心が高まり、楽しく美術の活動に取り組み、活動の喜びを味わえるように魅力的な題材を設定します。
- ③ 色々な活動を試み、個性を生かし、自ら学び自ら考える事ができる能力を「生きる力」ととらえ、これが身に付くような学習を心がけます。
- ④ ビジュアルコミュニケーション能力(視覚的に伝達する能力)を身につけ、美術を生涯にわたって生活の中で役立てる感性と美術を愛好する心を育てます。

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 「クロッキー」 観察表現を基本として友人を描き、クロッキーの基本を学ぶ。 2 「写生」 学校の周りの見慣れた風景から郷土の美しさを水彩画で描き、スケッチへの興味関心を高める。 3 「切り絵」 自己のイメージを整理し切り絵の技法で表現する。	・3分程度の短時間で、対象の形・全体のバランスを素早くとらえる。 ・クロッキーに親しみ、人物表現の楽しさを味わう。 ・スケッチの楽しさを味わい、水彩画の基礎的な技法を学習する。 ・戸外に出て五感を研ぎ澄ませ、感受性豊かに対象を観察し、感じ取った美しさや良さから発想し、風景画の創造的な構成を工夫する。 ・主題が生きるよう筆のタッチを工夫しながら画面全体を彩色する。 ・自己のイメージを整理し白黒の世界で表現する。 ・自分の作りたい形を考え、イメージ通りのアイデアスケッチを描けるようにする。 ・白黒のバランスを考え、構図を意識し、形をとらえられるよう工夫する。 ・色和紙の利用や背景の技法の工夫を考えさせる。
2 学 期	4 「水引」 日本の伝統文化を理解し、伝統技法を交えながら、水引の美しさを理解し、自己表現をする。 5 「アート発見」 現代美術の多様な表現に対する興味関心を育て、それらを鑑賞し、良さを味わう。	・日本の伝統文化にふれてくる。 ・日本の伝統文化を理解し、美しいと感じる心を育てる。 ・結びの意味、形に興味を持ち、感じ取った良さから自己表現する。 ・形に表現するために道具や材料を工夫する。 ・色和紙や水引の利用や自分独自の技法を工夫して成形する。 ・多様な表現の良さや美しさなどを味わい、鑑賞に親しむことができるようにする。 ・想像力を働かせ、現代美術の表現に表された作者の心情や表現の工夫を理解できるようにする。 ・授業の中で学んだ多様な表現の現代美術への興味・関心を発展させ、美術館を積極的に利用する姿勢を養う。
3 学 期	6 「水墨画」 伝統画法を体験し、古典美術のよさを味わう。 7「まとめ」	・日本の美術、美意識への関心を高め、体験する。 ・自分のイメージを白黒の世界で線の表現により形にする。 ・墨の濃淡の効果学ぶ。 ・対象の形やバランスをとらえ、表現に効果的な技法を工夫する。 ・中学校美術の振り返りと感想 ・一年間の反省